

米国、カナダ、オーストラリア 3カ国の豆類の生産見通し概況

米国：2017年10月12日公表ほか USDA Crop Production

9月の農業気象概況(2017年10月12日公表)

8月下旬にテキサス州でハリケーン・ハーベイによる被害が生じたのを皮切りに、9月にはハリケーンが次々と各地を襲い、全国的に話題となった。まず、ハリケーン・イルマが9月6日に米国領バージン諸島のセントトーマス島及びセントジョン島の北を通過し、両島の北部に被害を与えた。その後、ハリケーン・イルマはキューバ北部の海岸線沿いを進み、急に進路を右に変えて、9月10日朝にフロリダ南部の島々を通り抜けた。9月10日午後、ハリケーン・イルマはフロリダ州マルコ島に上陸した。9月10日から11日にかけて、ハリケーン・イルマの余波の強風、雨、洪水がフロリダ半島全体からジョージア州にまで及び、広範囲にわたって停電、都市機能の停滞、多様な生活物資の損失が生じた。1週間と少したった9月20日にハリケーン・マリアが米国領バージン諸島のセント・クロイス島の南を通過し、わずかに力を弱めたあと、プエルトリコを直撃した。ハリケーン・マリアの影響でプエルトリコは全面的に停電

し、強風と洪水による深刻な被害を受け、農業に長期的な大損失をもたらした。農業施設が被害を受けて全壊した例があり、バナナ、料理用バナナ(plantains)及び柑橘類の大規模農園や果樹園でほぼ全滅に近い作物の被害が生じた。

このように米国南東部の地域がハリケーン・イルマの被害を受けたことに加え、テキサス州東部とミシガン州南部を結んだ線に沿った地域及びその線の東側の地域では、9月の降水量がごくわずかであった。この短期的な乾燥のせいで、土壌湿度が急激に低下し、冬作コムギ及び被覆作物(cover crops)の生育に影響が出た。しかし、米国中西部ではこの時期としては例外的な温暖な気候となり、生育が遅れていたトウモロコシ及びダイズの成熟が促進された。

これとは対照的に米国中央部では9月中旬以降、湿潤な気候が続いた。多雨な気候の中心はロッキー山地南部及び大平原南部から米国中西部の北部にかけての地域であり、農作業に遅れや中断が生じたが、作付けされたばかりの冬作コムギにとっては土壌湿度が改善される効果があった。

大平原地域の北部及び米国北西部では、

9月中旬から下旬にかけて数回にわたり降雨があったことから、早魃の影響が緩和され、山火事抑制の一助となり、高温で乾燥し煙が多かった夏のあとだけに、大気の状態が改善された。米国西部のその他の地域では、カリフォルニア州及び南西部の砂漠地域を除き、9月初めの高温が数度にわたる降雨によって緩和され、顕著に冷涼な気候となった。

9月の農業概要(2017年10月12日公表)

米国の大部分の地域では9月の平均気温を上回る気温に恵まれ、コーンベルト地帯及びニューイングランド地域では、9月の平均気温が平年を2.2℃以上上回った。米国の多くの主要農業生産地域でこのような温暖な気温が続いたにも関わらず、秋に収穫される作物の成熟も収穫作業も促進されず、9月を通じて平年並みよりも遅れた状態であった。ロッキー山地、米国南西部及び米国南東部の北部では、9月の平均気温が平年を下回った地域が散見された。米国各地の降水量の水準は地域によって異なり、太平洋沿岸北東部、大平原地域及び南西部の一部地域では9月の総降水量が102mmを上回った。9月半ばにはハリケーン・イルマにより、フロリダ州を始めとする大西洋沿岸南部の諸州に豪雨がもたらされた。このハリケーンにより、フロリダ州の各地で406mmを超える降水量が記録さ

れた。平年を上回る降水量のおかげで、早魃状態であったモンタナ州、ノースダコタ州及びサウスダコタ州は恩恵を受けたが、農作業には遅れが生じた。

乾燥インゲンマメ

2017年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量は、前年度から23%増加して160万1,200tとなる見込みである。作付面積は、2016年度に比べて27%増加して85万3,900haとなる見込みである。収穫面積は、2016年度に比べて30%増加して82万1,500haとなる見込みである。米国全体の平均単収(単位面積当たり収穫量)は、1,945kg/haの見込みであり、2016年度を47.6kg下回っている。

ノースダコタ州では、作付けは6月18日までに完了しており、最近5年間の平均に比べて早くなっている。収穫は10月1日までに71%が終了しており、最近5年間の平均の73%に近い値となっている。ミシガン州では良好な天候に恵まれて作物の乾燥が進み、9月半ばから下旬にかけて収穫が開始された。10月2日までに57%のインゲンマメの収穫が終了しており、前年に比べてわずかに早まっている。

ミネソタ州では、6月11日までに作付けの大部分が終了し、平年に比べて1週間早かった。収穫の88%が10月1日までに終了した。

表1 米国の乾燥インゲンマメ単収及び生産量

作物名	単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2016	2017	2016	2017
乾燥インゲンマメ、 エンドウ及びレンズマメ				
オーストリアンウィンターピー	1.91	0.97	21,640	6,300
乾燥食用インゲンマメ	2.06	1.95	1,302,350	1,601,730
ヒヨコマメ(全品種) ²	1.91		247,070	
大粒	1.88		159,170	
小粒	1.96		87,910	
乾燥食用エンドウ	2.34	1.55	1,258,130	697,040
レンズマメ	1.57	0.82	575,380	338,240
リンクルドシードピー	(未詳)		19,910	

データは、入手可能な最新の報告書または前回の報告書の推定データによる。現行年度の推定である。空欄は、推定期間がまだ始まっていないことを示す。

(未詳) データが入手できていない。

(X) 摘要できない。

1) 作付面積はすべての用途のものを含む。

2) 四捨五入により、合計の数値に誤差が生ずる可能性がある。

表2 米国の乾燥食用インゲンマメ収穫面積、単収及び生産量
(2016年及び2017年10月1日現在推定)

州名	収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2016	2017	2016	2017	2016	2017
カリフォルニア	19,830	19,020	2.6	2.6	51,754	48,806
コロラド	17,401	22,662	2.0	2.2	34,064	50,802
アイダホ	55,441	73,652	2.1	1.8	119,022	136,213
ミシガン	84,174	87,816	2.2	1.9	181,527	170,278
ミネソタ	59,488	67,987	2.5	2.5	148,732	166,876
モンタナ	40,266	105,218	1.8	1.2	73,164	129,727
ネブラスカ	49,371	68,796	2.5	2.7	125,463	186,607
ノースダコタ	228,647	273,162	1.8	1.8	404,060	502,126
テキサス	9,712	8,093	1.2	1.3	11,974	10,432
ワシントン	53,823	80,127	2.2	1.9	119,340	152,679
ワイオミング	12,585	16,187	2.6	2.9	33,248	47,173
米国全体	630,743	822,725	2.1	1.9	1,302,354	1,601,725

1) 夾雑物を除去した値。

表3 米国の乾燥食用インゲンマメ収穫面積、単収及び生産量
(2016年及び2017年8月1日現在推定)

州名	収穫面積 (ha)		単収 (t/ha)		生産量 (t)	
	2016	2017	2016	2017	2016	2017
カリフォルニア	19,829	19,020	2.6	2.6	51,754	48,806
コロラド	17,401	22,460	2.0	2.0	34,064	44,814
アイダホ	55,441	72,843	2.1	1.9	119,022	138,799
ミシガン	84,174	87,816	2.2	1.8	181,527	154,538
ミネソタ	59,488	67,987	2.5	2.5	148,732	169,915
モンタナ	40,266	96,719	1.8	1.5	73,164	140,931
ネブラスカ	49,371	68,796	2.5	2.9	125,463	198,174
ノースダコタ	228,647	273,162	1.8	1.7	404,060	459,262
テキサス	9,712	8,093	1.2	1.3	11,974	10,432
ワシントン	53,823	80,127	2.2	1.8	119,340	143,698
ワイオミング	12,585	16,187	2.6	2.7	33,248	43,544
米国全体	630,743	813,215	2.1	1.9	1,302,354	1,552,919

1) 夾雑物を除去した値。

カナダ:2017年9月15日公表 AAFC Outlook for Principal Field Crops

本報告書は、カナダ農業食料省(AAFC)が8月に公表したカナダの2016/17作物年度及び2017/18作物年度の生産見通し報告書を更新するものである。大部分の作物について、カナダの作物年度は8月1日に始まり、7月31日に終わる。

乾燥エンドウ

2016/17年度のカナダの輸出量は、インド及び中国への輸出量が過去最高記録に達したことにより、2015/16年度に比べて49%増加して395万tとなった。それにも関わらず期末在庫量は大幅に増加した。これは、供給量が過去最高記録に達したことと国内利用量が減少したことによるもので

ある。2015/16年度の期末在庫量が少なかったことから、乾燥食用エンドウの平均価格は300ドル/tとなった。黄色乾燥エンドウ及び緑色乾燥エンドウの作物年度平均価格が前年度に比べて低下している一方で、飼料用エンドウの価格は上昇した。

2017/18年度のカナダの乾燥エンドウ生産量は、STC(カナダ統計局)の推定によれば、2015/16年度に比べて22%減少して410万tとなる見込みである。これは、単収が大幅に低下したことと、収穫面積がわずかながら減少したことによるものである。州別に見ると、サスカチュワン州が乾燥エンドウ生産量の46%を占めており、アルバータ州が50%を占め、残りをマニトバ州及びブリティッシュコロンビア州が占めている。しかし、期初在庫量が多かったことから、供給量の減少率は18%に留まるものと予測されている。輸出量は減少して

290万tとなるものと予測されており、引き続きインド、中国及びバングラデシュがカナダの輸出先の上位3位までを占めている。期末在庫量もまた増加するものと見込まれている。カナダの供給量が減少した一方で、期末在庫量が増加していることから、平均価格は2016/17年度と同様になる見込みである。

米国の2017/18作物年度の乾燥エンドウ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2016/17年度に比べて20%減少して、44万5,000haとなる見込みである。これは主としてモンタナ州及びノースダコタ州で作付面積の減少が見込まれていることによる。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、米国の乾燥エンドウ生産量は、AAFCの予測によれば、大幅に減少して90万tとなる見込みである。米国はカナダとの共通の市場である中国及びインドへの少量の乾燥エンドウの輸出に成功しており、2017/18年度には米国のこの市場での占有率を維持する見込みである。

レンズマメ

2016/17作物年度の輸出量は2015/16年度を20%近く上回り、過去最高記録の260万tに達した。この総輸出量のうち180万tが赤色レンズマメであり、残りの80万tが緑色レンズマメであった。インド、トルコ、バングラデシュ及びパキスタンへの輸出量は過去最高記録だった。国内総利用量は前年度に比べて大幅に減少し、50万tを下回った。期末在庫量は大きく増加して40万tと

なった。期末在庫量が増加したことから、カナダのレンズマメ平均価格は、2015/16作物年度に比べて大きく低下した。1等級大粒緑色レンズマメの価格は1等級赤色レンズマメの価格を590ドル/t上回り、単年度内の価格差で過去最高記録を達成した。

2017/18作物年度のレンズマメ生産量は、28%減少して230万tとなる見込みである。これは、単収が平年を下回るものと推定されているのに加えて、作付面積が減少したことによるものである。2016/17作物年度と比べて作付面積は25%減少しており、減少したのは大部分が赤色レンズマメである。州別に見ると、サスカチュワン州がレンズマメ生産量の89%を占めており、残りはアルバータ州で生産されている。期初在庫量が多かったことから総供給量の減少率は21%に留まる見込みである。輸出量は200万tに留まる見込みである。期末在庫量は減少して35万tとなる見込みである。供給量が少なく、品質が平年並みとみられていることから、平均価格は2016/17作物年度に比べて大幅に上昇する見込みである。前年度に比べて1等級の占める割合が増加するものと見込まれている。

米国の2017/18作物年度のレンズマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、2016/17年度に比べて9%増加して過去最高記録の40万4,700haとなる見込みであるが、これはモンタナ州で作付面積が増加したことによるものである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとすると、2017/18作物年度の米国のレンズマメ生産

量は、AAFCの予測によれば、前年度と同様の60万t近い値となる見込みである。米国産レンズマメの主要な輸出市場は、引き続きインド及びEU諸国であり、特にスペインへの輸出が顕著となる見込みである。

乾燥インゲンマメ

2016/17作物年度の輸出量は、アフリカ諸国及び南米諸国の需要が強いことから、2015/16作物年度に比べて増加する見込みである。EU諸国及び米国が引き続きカナダ産乾燥インゲンマメの主要な市場であり、これより少量が日本、メキシコ、中東及びアフリカ諸国へ輸出されている。北米全体の供給量が減少していることが2016/17作物年度の米国及びカナダの乾燥インゲンマメの価格、特にブラック・ビーン価格が上昇する主な原因となっている。

2017/18作物年度のカナダの乾燥インゲンマメ生産量は、2016/17作物年度に比べて増加して32万tとなると予測されており、これは主にオンタリオ州で作付面積が増加し、単収が向上したことによるものである。州別に見ると、オンタリオ州が乾燥インゲンマメ生産量全体の39%を占めており、マニトバ州が38%、アルバータ州が20%で、残りがケベック州となっている。期初在庫量が減少したにも関わらず、総供給量は増加する見込みである。輸出量は前年度に比べてわずかに減少する見込みである。その結果、期末在庫量は大幅に増加する見込みである。北米全体での供給量が増加す

る見込みであることから、カナダの乾燥インゲンマメ平均価格はわずかに低下するものと見込まれている。

米国の乾燥インゲンマメ作付面積は、米国農務省の予測によれば、11%増加して60万7,000ha近い値となる見込みであるが、これは主としてノースダコタ州で作付面積が増加したことによるものである。2017/18作物年度の米国の乾燥インゲンマメ生産量(ヒヨコマメを除く)は、米国農務省の予測によれば、2016/17作物年度に比べて増加して120万tとなる見込みである。最も増加が顕著なのはピントー・ビーンであり、最大の減少を示しているのはスモールレッド・ビーンである。

ヒヨコマメ

2016/17作物年度のカナダのヒヨコマメ輸出量は、2015/16作物年度に比べて大幅に減少して10万8,000tとなった。米国及びパキスタンへの輸出量の減少が、このような輸出量の減少の背景にある。供給量が減少したことで、輸出量が減少したにも関わらず、期末在庫量は大きく減少して過去5年間の平均を下回った。ヒヨコマメ全銘柄について、平均価格は大幅に上昇して過去最高となった。

2017/18作物年度の生産量は、単収が低下したことから、前年度と同様の8万1,000tとなる見込みである。州別に見ると、サスカチュワン州がヒヨコマメ生産量全体の93%を占め、残りをアルバータ州が占めている。期初在庫量及び輸入量が減少したこ

とで、総供給量は前年度に比べて26%減少する見込みである。輸出量は2016/17作物年度に比べて減少する見込みであり、期末在庫量は前年度と変わらない見込みである。1等級の占める割合が増えて、等級の分布が平年に近い状態になるとの期待から、平均価格は上昇する見込みである。

2017/18作物年度の米国のヒヨコマメ作

付面積は、米国農務省の予測によれば、過去最高記録の24万2,800haとなる見込みである。単収及び収穫を断念する割合が平年並みであるとする、2017/18作物年度の米国のヒヨコマメ生産量は、AAFCの予測によれば、40万tで前年度の2倍近い値となる見込みである。米国のヒヨコマメの主な輸出市場は、インド及びEU諸国である。

表4 カナダの豆類作付面積・収穫面積・単収その他

	乾燥エンドウ[a]			レンズマメ[a]			乾燥インゲンマメ[a]			ヒヨコマメ[a]		
	2015-2016	2016-2017[f]	2017-2018[f]	2015-2016	2016-2017[f]	2017-2018[f]	2015-2016	2016-2017[f]	2017-2018[f]	2015-2016	2016-2017[f]	2017-2018[f]
作付面積 (1,000ha)	1,489	1,715	1,656	1,633	2,372	1,783	108	115	133	50	62	58
収穫面積 (1,000ha)	1,470	1,686	1,640	1,630	2,323	1,756	107	113	132	50	44	58
単収 (t/ha)	2.18	2.87	2.31	1.56	1.4	1.3	2.31	2.07	2.4	1.8	1.86	1.4
生産量 (1,000t)	3,201	4,836	3,793	2,541	3,248	2,291	249	234	316	90	82	81
輸入量 (1,000t) [b]	15	30	25	16	102	15	81	91	80	14	27	10
総供給量 (1,000t)	3,900	5,040	4,118	2,922	3,423	2,711	365	340	398	234	129	96
輸出量 [b]	2,647	3,950	2,900	2,145	2,555	2,000	324	337	330	152	108	85
国内総利用量 (1,000t) [c]	1,079	790	818	704	463	361	26	0	28	62	16	6
期末在庫量 (1,000t)	174	301	400	73	405	350	15	3	40	20	5	5
在庫量/利用量 (%)	5	6	11	3	13	15	4	1	11	9	4	5
平均価格 (\$/t) (d)	365	300	280-310	965	575	720-750	775	885	825-855	815	1,000	1,000-1,030

[a] 作物年度 (8月から7月)

[b] 輸入量及び輸出量には加工品の量は含まれない。

[c] 国内総利用量=食用及び加工原料用+飼料用廃棄物+種子用+損耗。国内総利用量は、総供給量から輸出量及び期末在庫量を差し引いて算出した値である。

[d] 生産者価格 (FOB)。すべての銘柄、等級及び市場の平均。

f: 推定。カナダ農業食料省。ただし、2015/16年度の作付面積、収穫面積、単収及び生産量、並びに2016/17年度の作付面積は、カナダ統計局の推定。

資料: カナダ統計局及び業界団体

オーストラリア：2017年9月12日公表 ABARES Australian crop report

概観

オーストラリアの冬季の生育条件にばらつきがあり、その結果、春季の初めの時点での作物の状況に大きな差異が生じた。6月の降水量は大部分の生産地域で平年並みを大きく下回り、7月及び8月の降水量は地域によりまちまちであった。

春季の初めの時点でヴィクトリア州、南オーストラリア州東部、西オーストラリア州南部並びにニューサウスウェールズ州南部及び東部では、全般的に作物の生育状況は良好であった。これらの地域の大部分では、冬季の初めの降水量が平年並みを下回った時期にも土壌湿度が作物の生育に適切な水準を保ち、8月の適期に降雨があったので、生育の見通しは尻上がりに良好な状況となった。その他の生産地域では春季の初めの時点での生育条件にばらつきがあった。南オーストラリア州のエア半島及

びヨーク半島では、秋季から冬季の始めにかけての降水量が平年並みを下回り、その影響で作物の発芽及び生育に遅れが生じた。春季の生育条件は良好だったが、この地域で現在生育中の作物の作柄は必ずしも良いとは言い切れない。ニューサウスウェールズ州中西部では、冬季の終わりに土壌湿度が不足しており、春季の始めに降雨があったが、この地域の作物の見通しには疑問がある。ニューサウスウェールズ州北西部、クイーンズランド州南西部及び西オーストラリア州北部の生産地域の作柄は、春季の始めの時点では、全般的に非常に悪く、収穫量は少ない見込みである。

最新の向こう3か月間降水量予測(2017年9月から11月)は2017年8月31日に公表されたが、オーストラリアの大部分の生産地域では、春季の降水量はほぼ平年並みであると気象庁は予測している。西オーストラリア州で春季に、予測の中間値を超える降水量が得られる確率は、平年並みに比べて低い見込みである。

表5 オーストラリアの豆類作付面積及び生産量

作物名	作付面積 (1,000ha)			生産量 (1,000t)		
	2015-16	2016-17 _s	2017-18 _f	2015-16	2016-17 _s	2017-18 _f
ヒヨコマメ	677	1,052	1,099	875	1,854	1,188
ファバビーン (ソラマメ)	220	230	213	301	477	341
フィールドピー	238	230	218	205	415	280
レンズマメ	225	306	355	182	830	419
ルーピン	534	515	508	652	1,032	528

f：ABARESによる予測。

s：ABARESによる推定。

注：作物年度は、4月1日から3月31日までの12か月間に作付けされた作物を対象としている。首都圏及びオーストラリア北部の数値をオーストラリア全体の生産量に含めるかどうかによって、各表の間に若干の差異が生じる場合がある。

典拠：ABARES（オーストラリア農業経済及び農業科学庁）、オーストラリア統計局、PulseAustralia

表6 オーストラリアの州別生産量

	ニューサウスウェールズ州		ヴィクトリア州		クイーンズランド州		南オーストラリア州		西オーストラリア州		タスマニア州	
	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量	作付面積	生産量
	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t	1,000ha	1,000t
ヒヨコマメ												
2017-18 f	478	478	25	30	560	650	30	30	6	0	0	0
2016-17 s	480	792	16	28	533	1,000	19	27	4	7	0	0
2015-16	398	489	13	3	252	371	11	7	4	4	0	0
2016/17年度までの5年間の平均	317	439	31	37	277	445	18	20	4	5	0	0
フィールドピー												
2017-18 f	52	55	45	50	0	0	90	110	31	66	0	0
2016-17 s	50	85	49	100	0	0	100	175	31	55	0	0
2015-16	48	73	54	21	0	0	114	82	22	29	0	0
2016/17年度までの5年間の平均	50	68	51	64	0	0	110	140	34	43	0	0
レンズマメ												
2017-18 f	4	4	170	150	0	0	180	265	0	0	0	0
2016-17 s	5	10	140	350	0	0	160	470	0	0	0	0
2015-16	1	3	107	40	0	0	115	137	1	1	0	0
2016/17年度までの5年間の平均	2	3	98	132	0	0	111	203	1	1	0	0
ルーピン												
2017-18 f	63	63	35	30	0	0	60	70	350	365	0	0
2016-17 s	51	66	33	60	0	0	70	100	361	805	0	0
2015-16	95	111	46	31	0	0	62	53	331	457	0	0
2016/17年度までの5年間の平均	63	73	34	35	0	0	63	76	306	480	0	0

f: ABARES による予測。

s: ABARES による推定。

注: 作付面積が500ha未満である場合、または生産量が500t未満である場合には、四捨五入により作付面積または生産量の推定値あるいは予測値がゼロと表示される場合がある。

典拠: ABARES (オーストラリア農業経済及び農業科学庁、オーストラリア統計局)

表7 オーストラリアの豆類供給及び利用状況

	2010-11 (1,000t)	2011-12 (1,000t)	2012-13 (1,000t)	2013-14 (1,000t)	2014-15 (1,000t)	2015-16 s (1,000t)
生産量						
ルーピン	808	982	459	626	549	652
フィールドピー	395	342	320	342	290	205
ヒヨコマメ	513	673	813	629	555	875
見かけ上の国内利用量 a						
ルーピン	621	416	290	286	306	398
フィールドピー	95	130	145	175	124	72
ヒヨコマメ	39	93	1	0	1	1
輸出量						
ルーピン	186	565	169	340	243	254
フィールドピー	302	215	177	169	168	134
ヒヨコマメ	474	581	853	629	663	1,145

a: 生産量に輸入量を加えた値から、輸出量を引き、さらに在庫量に明らかな変化が認められた場合には、その値を引いて算出した値。

注: 生産量、利用量、輸出入量及び在庫量は、市場年度に基づいている。ピー及びルーピンの市場年度は、11月から10月まで。在庫量の増減があることから、生産量は、単年度内の見かけ上の国内利用量と輸出量を足した値とは一致しない場合がある。輸出量のデータは、市場年度に基づく輸出期間を参照したものであって、他の資料で公表されている財務年度に基づく輸出量とは一致しない場合がある。500t未満の場合には、ゼロと表示する。

典拠: ABARES(オーストラリア農業経済及び農業科学庁)、オーストラリア統計局、Pulse Australia

表8 オーストラリアの豆類価格の推移（豪ドル/t）

作物名	2015	2016	2016	2016	2016	2017	2017
	第4四半期	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
国内価格: ルービン (クィナナ調べ)	320	350	270	278	272	298	265
国内価格: ヒヨコマメ (メルボルン調べ)	794	607	1,139	1,108	776	993	1,034
国内価格: フィールドピー (メルボルン調べ)	519	433	602	413	355	555	362
輸出価格: ヒヨコマメ b	865	618	1,055	1,272	968	904	1,023
輸出価格: フィールドピー b	568	513	646	634	506	590	458

a：単位重量当たりの輸出価格は、米ドルで表記された日別価格の平均を、日別為替レートの四半期ごとの平均値に基づいて豪ドルに換算したものである。b：単位重量当たりの輸出価格は、その四半期に輸出された穀物の平均価格を反映したものであって、現在の市場価格とは異なる。ここに示した価格は、オーストラリア統計局が記録したオーストラリアからの輸出の単位重量当たり平均価格（F.O.B.本船渡し）である。輸出業者による価格の取り決めの時点と、実際に輸出が行われる時点の間には、大きな時間差が生じる場合がある。

注：第1四半期は1月から3月まで。第2四半期は4月から6月まで。第3四半期は7月から9月まで。第4四半期は10月から12月まで。価格の算出に当たっては、商品サービス税(GST)を除外している。

典拠：ABARES（オーストラリア農業経済及び農業科学庁）、オーストラリア統計局、CMEグループ、Farm Weekly；国際穀物会議（International Grains Council）、The Land、The Weekly Times、米国農務省